

ばんしん景況レポート

〒670-0962
姫路市南駅前町110番地
播州信用金庫

中小企業景気動向調査 2021年10月～12月期 NO. 65

照会先 経営企画部
TEL 079-280-3398(直通)
FAX 079-281-4667

【概況】 2021年10月～12月期の業況は▲4.2、前期比 8.1ポイントプラスと上向きました。
来期は両地域とも低迷する見通しです。

景気動向調査主要指数D.I（総合）

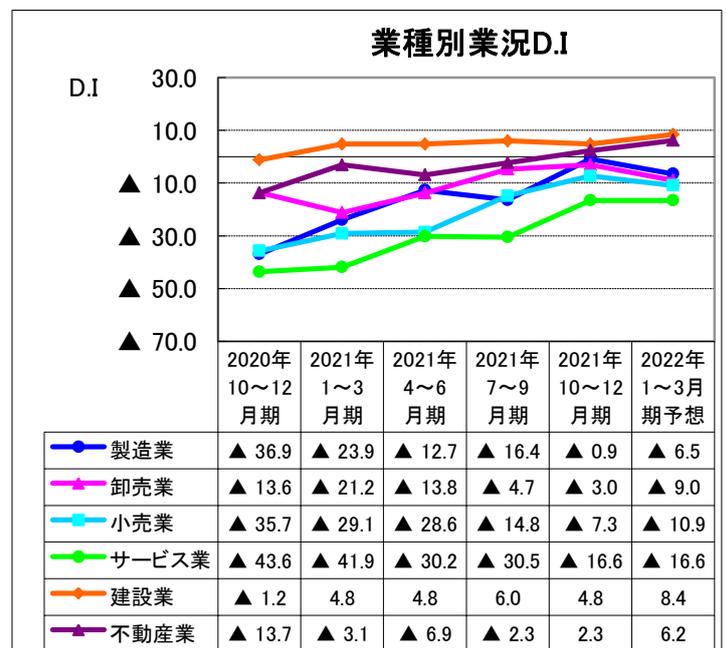
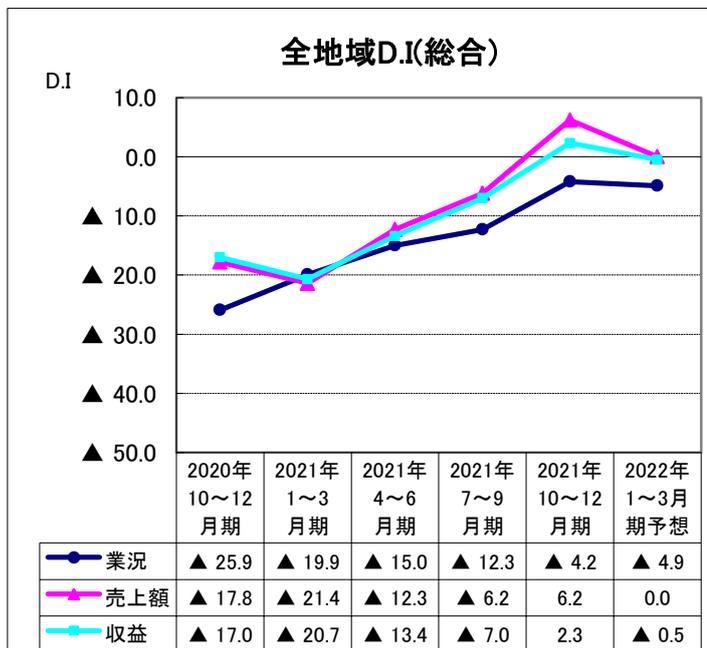
項目	全地域			姫路地域			神戸地域		
	2021年 7月～9月期	2021年10月 ～12月期	2022年1月～ 3月期予想	2021年 7月～9月期	2021年10月 ～12月期	2022年1月～ 3月期予想	2021年 7月～9月期	2021年10月 ～12月期	2022年1月～ 3月期予想
業況	▲ 12.3	▲ 4.2	▲ 4.9	▲ 14.8	▲ 5.2	▲ 5.6	▲ 9.5	▲ 0.4	▲ 2.2
売上額	▲ 6.2	6.2	0.0	▲ 8.1	3.7	▲ 0.4	▲ 4.7	12.0	1.4
収益	▲ 7.0	2.3	▲ 0.5	▲ 6.6	0.0	▲ 1.5	▲ 7.3	6.5	0.7
販売価格	3.4	12.9	10.9	3.0	12.6	10.8	4.7	13.4	9.8
仕入価格	19.0	35.3	28.5	20.7	39.8	31.2	19.8	29.5	24.0
在庫	▲ 3.8	▲ 3.6	▲ 4.9	▲ 2.5	▲ 5.9	▲ 6.9	▲ 6.2	▲ 3.6	▲ 6.1
資金繰り	▲ 2.2	1.7	13.7	▲ 2.2	3.7	15.2	▲ 1.1	1.1	15.3
人手	▲ 13.0	▲ 18.2	▲ 18.4	▲ 18.8	▲ 24.8	▲ 25.9	▲ 5.9	▲ 11.3	▲ 9.1
設備状況	▲ 6.5	▲ 5.8	▲ 7.8	▲ 7.4	▲ 3.9	▲ 6.6	▲ 4.8	▲ 7.9	▲ 9.5

2021年10月～12月期実績

《 建設業以外の業種で上向き 》
当期の全地域の全業況D.Iは▲4.2、前期比8.1ポイントプラスと上向きました。全地域の業種別では、建設業以外の業種において上向きました。

2022年1月～3月期見通し

《 両地域とも低迷する見通し 》
来期の全地域の全業種予想業況D.Iは▲4.9、当期比0.7ポイントマイナスと低迷する見通しです。全地域の業種別では、建設業、不動産業において上向き見通しです。地域別では、両地域とも低迷する見通しです。



調査要領

1. 調査目的

当金庫営業地域内の景気動向を把握し、お取引先の経営者の皆様に景気に関する情報提供をおこない、経営にお役立ていただくことを目的としています。

2. 調査時期

2021年12月上旬

3. 調査対象期間

2021年10月～12月期実績（2021年7月～9月期との比較）

2022年1月～3月期予想（2021年10月～12月期実績との比較）

4. 調査方法

調査員による「面接聞き取り調査」

5. 分析方法

本調査はD.I（ディフュージョン・インデックス）による分析

D.Iとは、景気が「良い」、「増加」、「上昇」、「過剰」、「楽」と回答した企業の割合から「悪い」、「減少」、「下降」、「不足」、「苦しい」と回答した企業の割合を差し引いた構成比差から景気の方角を判断する指数です。

6. 調査地域

姫路地域・・・姫路地区（姫路市）

東播地区（加古川市・高砂市・三木市・稲美町）

西播地区（赤穂市・相生市・たつの市・太子町）

北播地区（加西市・福崎町）

神戸地域・・・神戸地区（神戸市・西宮市・尼崎市・宝塚市・伊丹市）

明石地区（明石市・神戸市西区）

※調査地域については、上記地区に所在する当金庫支店を基準とした地域設定であります。

調査先および回答状況

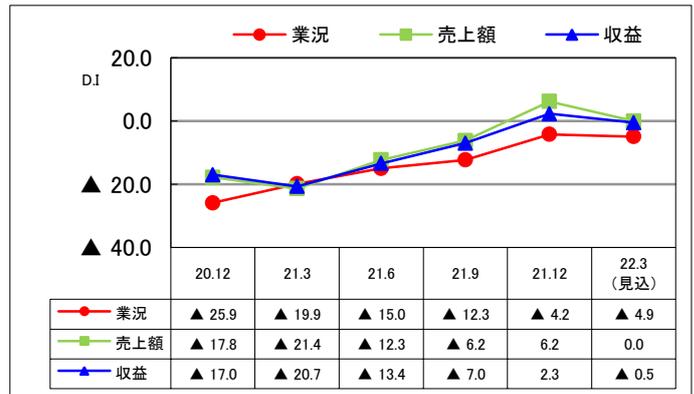
	依頼数	回答数	回答率
製造業	112	112	100.0%
卸売業	67	67	100.0%
小売業	55	55	100.0%
サービス業	151	151	100.0%
建設業	84	84	100.0%
不動産業	131	131	100.0%
合計	600	600	100.0%

本レポートは、標記時点における情報提供のみを目的としたものであります。したがって投資等や施策実施に関する最終決定はご自身の判断でなされるようお願いいたします。また、本レポート掲載資料については、当金庫が信頼できると考える各種データに基づき作成していますが、その情報の正確性および完全性について当金庫が保証するものではありません。

1. 業況

全業種における業況D. Iは▲4.2、前期比8.1ポイントプラス（前年同期比+21.7）と上向きました。業種別では、建設業以外の業種において上向きました。

来期予想D. Iは▲4.9、当期比0.7ポイントマイナスと低迷する見通しです。業種別では、建設業、不動産業において上向き見通しです。



2. 売上額

全業種における売上額D. Iは6.2、前期比12.4ポイントプラス（前年同期比+24.0）と好転しました。業種別では、建設業以外の業種において上向きました。

来期予想D. Iは0.0、当期比6.2ポイントマイナスと増加幅が縮小する見通しです。業種別では、不動産業において上向き見通しです。

3. 収益

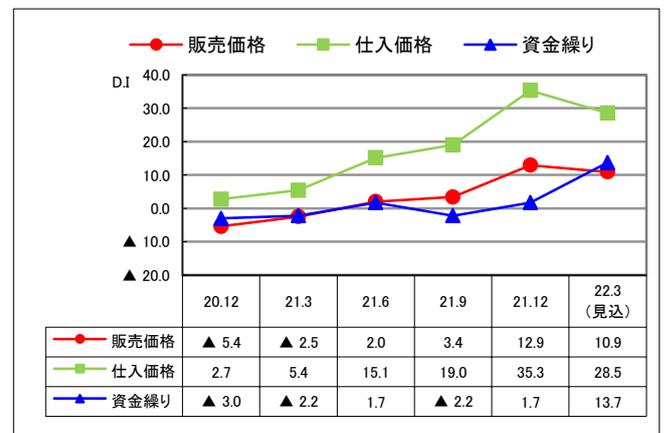
全業種における収益D. Iは2.3、前期比9.3ポイントプラス（前年同期比+19.3）と好転しました。業種別では、建設業以外の業種において改善しました。

来期予想D. Iは▲0.5、当期比2.8ポイントマイナスと水面下に落ち込む見通しです。業種別では、不動産業において改善する見通しです。

4. 資金繰り

全業種における資金繰りD. Iは1.7、前期比3.9ポイントプラス（前年同期比+4.7）と窮屈感を脱しました。業種別では、建設業、不動産業以外の業種において和らぎました。

来期予想D. Iは13.7、当期比12.0ポイントプラスと容易になる見通しです。業種別では、全業種において和らぐ見通しです。



5. 販売価格

全業種における販売価格D. Iは12.9、前期比9.5ポイントプラス（前年同期比+18.3）と上昇幅が拡大しました。業種別では、建設業以外の業種において上昇しました。

来期予想D. Iは10.9、当期比2.0ポイントマイナスと上昇幅が縮小する見通しです。業種別では、製造業において上昇する見通しです。

6. 仕入価格

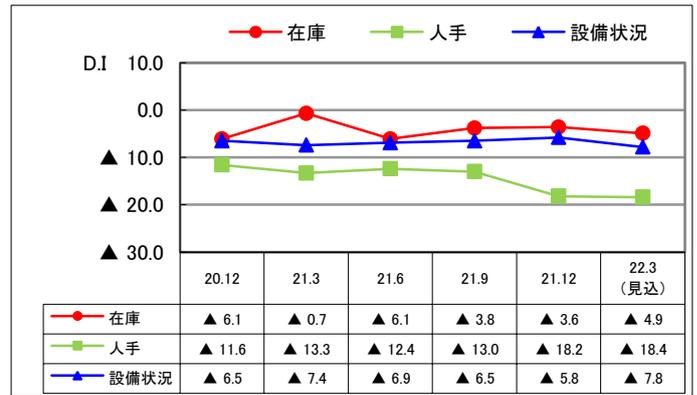
全業種における仕入価格D. Iは35.3、前期比16.3ポイントプラス（前年同期比+32.6）と上昇幅が拡大しました。業種別では、全業種において上昇しました。

来期予想D. Iは28.5、当期比6.8ポイントマイナスと上昇幅が縮小する見通しです。業種別では、建設業において上昇する見通しです。

7. 在庫

全業種における在庫D.Iは▲3.6、前期比0.2ポイントプラス（前年同期比+2.5）と不足感が改善しました。業種別では、建設業と不動産業で不足感が改善しました。

来期予想D.Iは▲4.9、当期比1.3ポイントマイナスと不足感が強まる見通しです。業種別では、製造業以外で不足感が強まる見通しです。



8. 人手

全業種における人手D.Iは▲18.2、前期比5.2ポイントマイナス（前年同期比 ▲6.6）と不足感が強まりました。業種別では、全業種において不足感が強まりました。

来期予想D.Iは▲18.4、当期比0.2ポイントマイナスとさらに不足感が強まる見通しです。業種別では、卸売業と小売業においてさらに不足感が強まる見通しです。

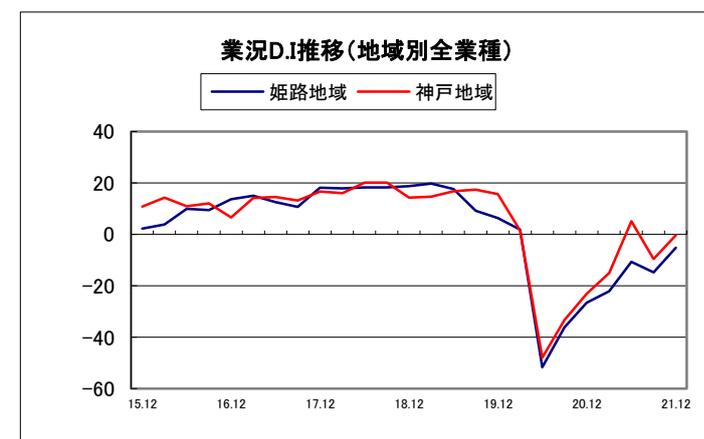
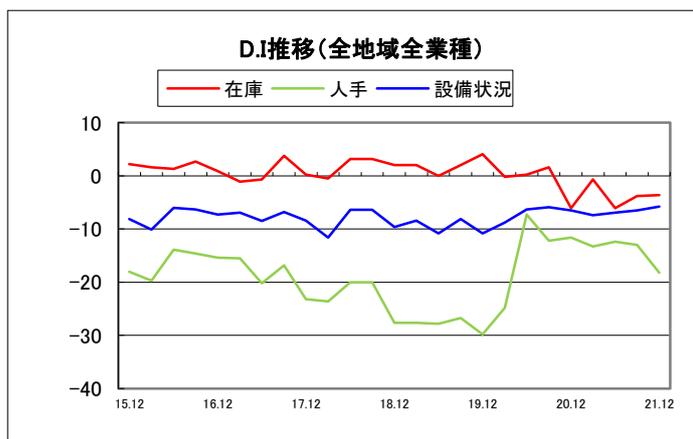
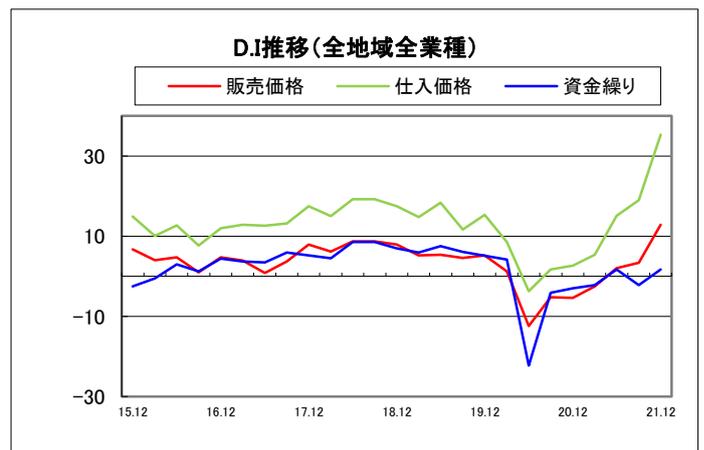
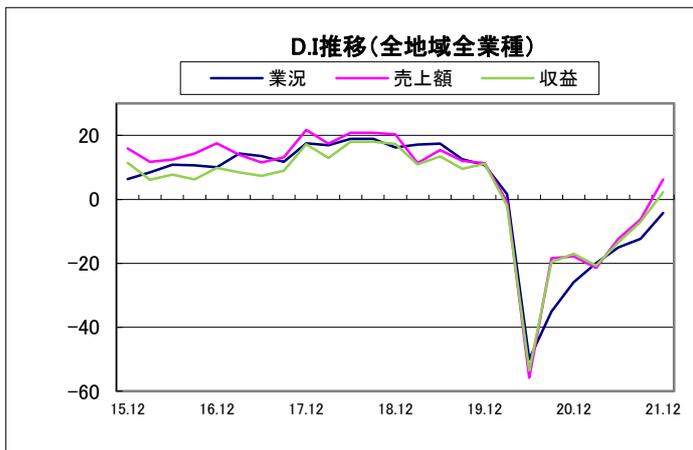
9. 設備状況

全業種における設備状況D.Iは▲5.8、前期比0.7ポイントプラス（前年同期比+0.7）と改善しました。

また、設備投資を行ったと回答した企業の割合は29.8%、前期比2.0ポイントマイナス（前年同期比+7.6）と減少しました。また業種別では、卸売業において設備投資を行った企業の割合が増加しました。

来期に設備投資を行うと回答した企業の割合は34.6%、当期比4.8ポイントプラスと増加する見通しです。

過去D.I推移



地域別景況D. I

□ 全業種総合

(姫路地域) 回答企業324企業 (回答率100.0%)
(神戸地域) 回答企業276企業 (回答率100.0%)

1. 業況

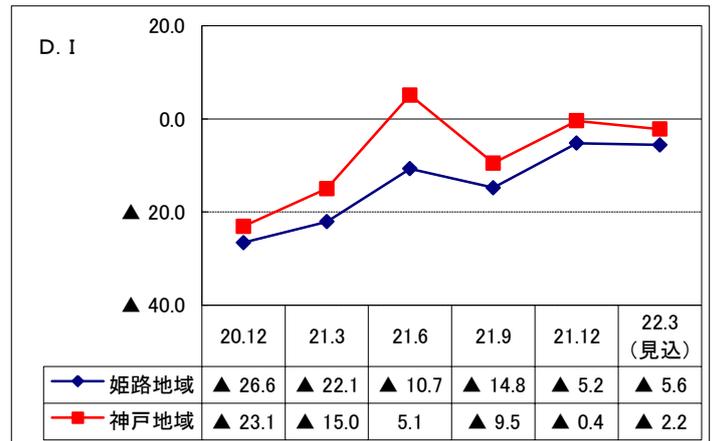
姫路地域の業況D. Iは▲5.2、前期比9.6ポイントプラス（前年同期比+21.4）と上向きました。

来期予想D. Iは▲5.6、当期比0.4ポイントマイナスと低迷する見通しです。

神戸地域の業況D. Iは▲0.4、前期比9.1ポイントプラス（前年同期比+22.7）と上向きました。

来期予想D. Iは▲2.2、当期比1.8ポイントマイナスと低迷する見通しです。

当期の地域別業況は、両地域とも上向きました。



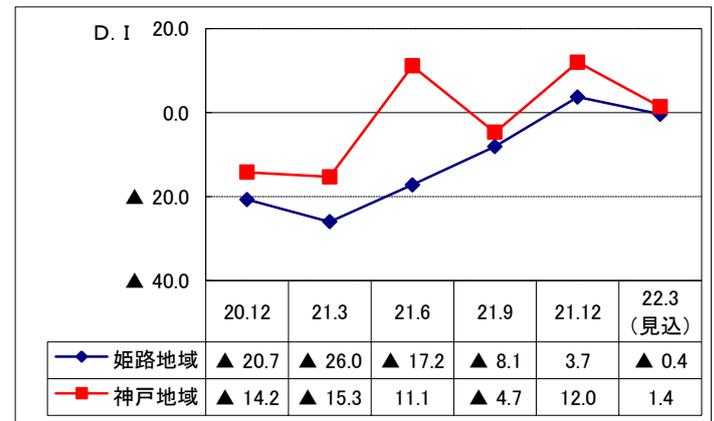
2. 売上額

姫路地域の売上額D. Iは3.7、前期比11.8ポイントプラス（前年同期比+24.4）と好転しました。

来期予想D. Iは▲0.4、当期比4.1ポイントマイナスと増加から減少に転じる見通しです。

神戸地域の売上額D. Iは12.0、前期比16.7ポイントプラス（前年同期比+26.2）と好転しました。

来期予想D. Iは1.4、当期比10.6ポイントマイナスと増加幅が縮小する見通しです。



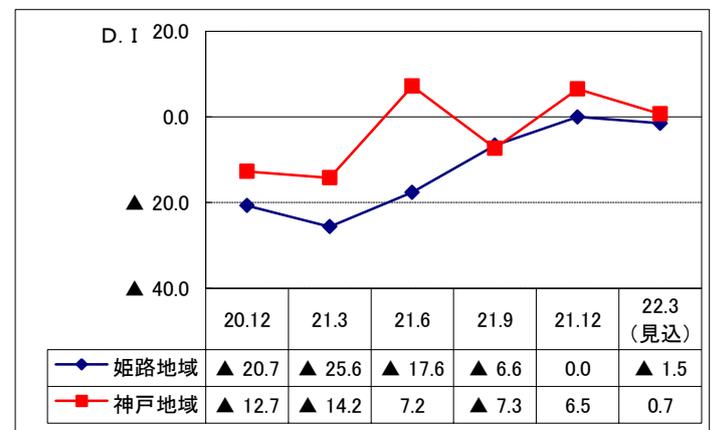
3. 収益

姫路地域の収益D. Iは0.0、前期比6.6ポイントプラス（前年同期比+20.7）と好転しました。

来期予想D. Iは▲1.5、当期比1.5ポイントマイナスと水面下に落ち込む見通しです。

神戸地域の収益D. Iは6.5、前期比13.8ポイントプラス（前年同期比+19.2）と好転しました。

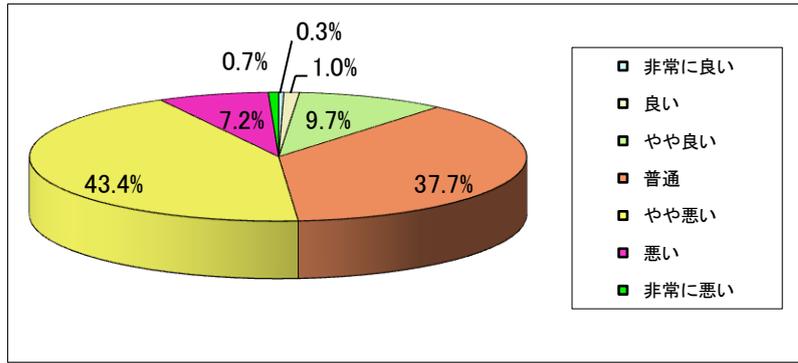
来期予想D. Iは0.7、当期比5.8ポイントマイナスと増加幅が縮小する見通しです。



特別調査「2022年（令和4年）の経営見通し」

問1 貴社では、2022年の日本の景気をどのように見通していますか。次の中から1つ選んでお答えください。

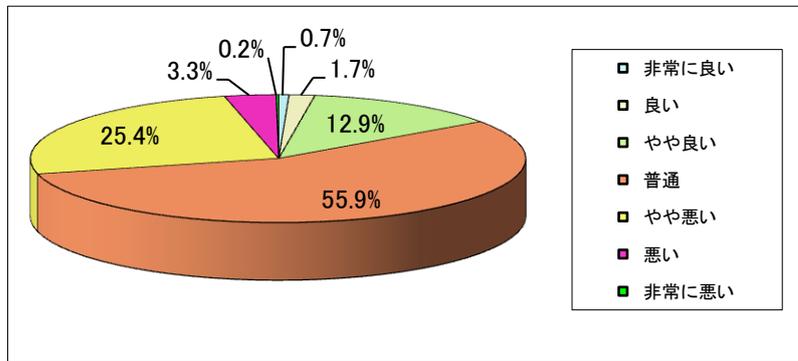
1. 非常に良い
2. 良い
3. やや良い
4. 普通
5. やや悪い
6. 悪い
7. 非常に悪い



2022年の日本の景気をどのように見通していますかについて、最も多い回答は「やや悪い」43.4%、次いで「普通」37.7%、「やや良い」9.7%という結果となりました。

問2 貴社では、2022年の自社の業況（景気）をどのように見通していますか。次の中から1つ選んでお答えください。

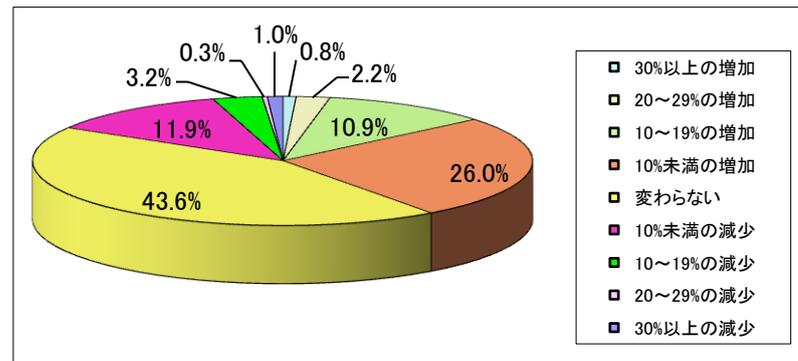
1. 非常に良い
2. 良い
3. やや良い
4. 普通
5. やや悪い
6. 悪い
7. 非常に悪い



2022年の自社の業況（景気）をどのように見通していますかについて、最も多い回答は「普通」55.9%、次いで「やや悪い」25.4%、「やや良い」12.9%という結果となりました。

問3 2022年において貴社の売上額の伸び率は、2021年比べておおよそどのくらいになると見通していますか。次の中から1つ選んでお答えください。

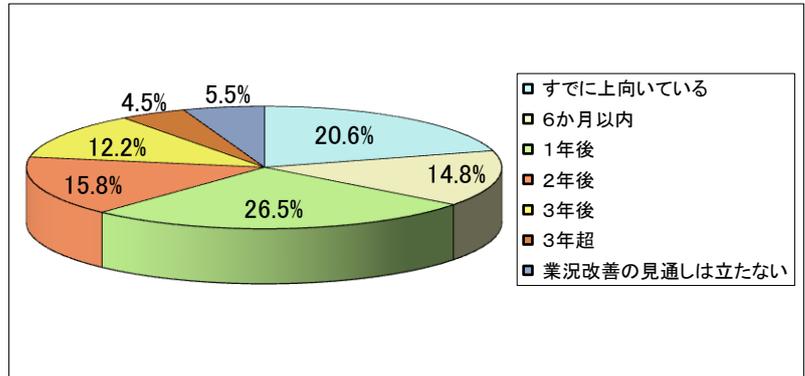
1. 30%以上の増加
2. 20～29%の増加
3. 10～19%の増加
4. 10%未満の増加
5. 変わらない
6. 10%未満の減少
7. 10～19%の減少
8. 20～29%の減少
9. 30%以上の減少



2022年において貴社の売上額の伸び率は、2021年比べておおよそどのくらいになると見通していますかについて、最も多い回答は「変わらない」43.6%、次いで「10%未満の増加」26.0%、「10%未満の減少」11.9%という結果となりました。

問4 貴社では、自社の業況が上向き転換点をいつ頃になると見通していますか。次の中から1つ選んでお答えください。

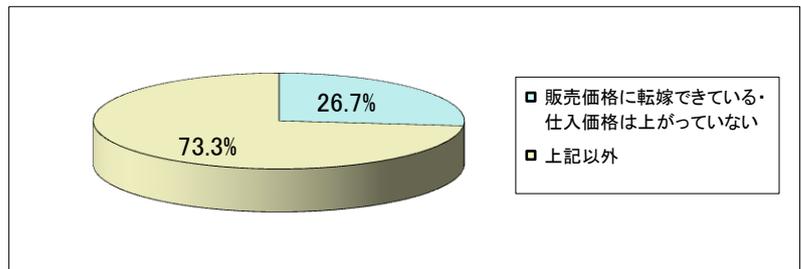
1. すでに上向いている
2. 6か月以内
3. 1年後
4. 2年後
5. 3年後
6. 3年超
7. 業況改善の見通しは立たない



自社の業況が上向き転換点をいつ頃になると見通していますかについて、最も多い回答は「1年後」26.5%、次いで「すでに上向いている」20.6%、「2年後」15.8%という結果となりました。

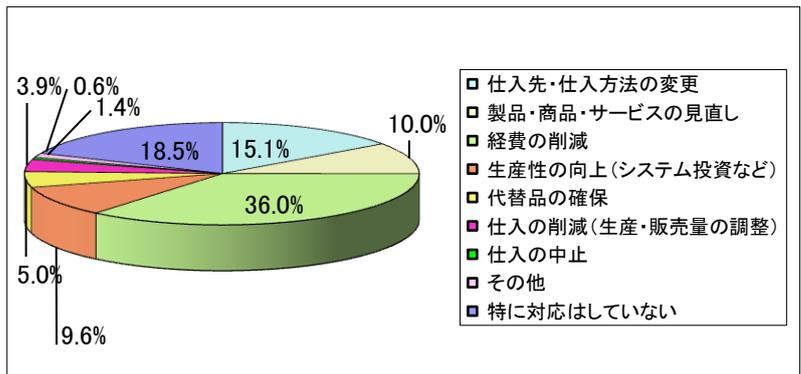
問5 様々な分野で原材料・仕入価格の上昇が経営上の問題となっていますが、貴社ではどのような対応を取っていますか。上昇分を販売価格に転嫁できている方や、そもそも原材料・仕入価格が上がっていないという方は1を、また、価格転嫁できていない方は仕入（調達）価格上昇への対応について2～0の中から最大3つまで選んでお答えください。

1. 販売価格に転嫁できている・仕入価格は上がっていない
 - a. 上記以外



【価格転嫁できていない方等】
仕入（調達）価格上昇への対応

2. 仕入先・仕入方法の変更
3. 製品・商品・サービスの見直し
4. 経費の削減
5. 生産性の向上（システム投資など）
6. 代替品の確保
7. 仕入の削減（生産・販売量の調整）
8. 仕入の中止
9. その他
0. 特に対応はしていない



様々な分野で原材料・仕入価格の上昇が経営上の問題となっていますが、貴社ではどのような対応を取っていますかについて「原材料・仕入価格の上昇分を販売価格に転嫁できている、仕入価格が上がっていない」は26.7%、「それ以外」は73.3%でした。価格転嫁できていない方で仕入（調達）価格の上昇への対応で最も多い回答は「経費の削減」36.0%、次いで「特に対応はしていない」18.5%という結果となりました。